

聖書:エペソ人への手紙4章11~16節

説教:キリストのからだを建て上げる

はじめに

先週、2024年度信徒総会が開かれ、すべての議案がみなさんの賛成をいただいて承認されました。議案にもあったとおりに、後任牧師を求めていくために今年度から具体的に準備を初めていくことになるわけですが、皆さんの気持ちとしては、いろいろな不安が交錯しているというのが正直なところではないでしょうか。牧師交代はどんな教会であっても決して簡単なことではありません。ある教会では、牧師交代をきっかけにして教会が真っ二つに割れてしまったという話を聞いたことがあります。もちろん私たちはそんなふうにはなりたくありません。ではどうしたら教会をしつかりと建て上げていけるのか。聖書に立ち戻って教会について考えてまいります。

1 キリストのからだ

1) 教会 (1:23)

そこでまず教会とはなにかというところから確認していきましょう。パウロは1章23節でこう言っていました。「教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。」ことばとしてはそんなに難しくありません。でも、わからないことがある。キリストは二千年前に母マリアを通して私たちのところへ、からだをもつ人となって来られました。そのからだなら分かります。ところが教会はキリストのからだだと言われる。これはあきらかに比喻で、肉体のからだではなくて、霊的にキリストが生きているからだという意味ととります。ではキリストのからだはどのようにして建てられていくのでしょうか。たとえば、屋根の上に十字架を掲げ、玄関に「キリスト教会」という看板を掲げれば、それがキリストのからだなのか。そんなことはありませんね。外側だけやたらに立派でも中身がない。そういうのを張りぼてを言いますが、教会は張りぼてではありません。ちゃんと内側にキリストがぎっしりと詰まって満ち満ちているところ。そこが教会です。

2) 聖徒たちを整える

ではキリストが満ち満ちているとはどういうことか。救われた者、聖徒たちが沢山集まれば自動的に出来上がるのか。それも違う。12節にこうあ

ります。「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。」聖徒たちが整えられて、そこで初めてキリストのからだ建て上げられる。そういう順番です。でも皆さんはいまここを読んでどう理解されましたか。「キリストのからだを建て上げるという大事な目的のために、あなたがたはもっと整えられて奉仕の働きをすべきである。」そうとりませんでしたか。でも、こんな言われ方をされたら、なにか息が苦しくなりませんか。私は息苦しくなります。それはおかしい。

2 どのようにして

1) 礼拝をとおして

ではどういうことか。まず「聖徒たちを整える」とはどういうことか。パウロは別のことばで表現しています。13節。「私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。」

お互いに信じている内容がばらばらだったら、どんなにがんばっても一つになれません。だから、まずは神の御子に対する信仰と知識において一つになる。そこが出発点です。当たり前です。

では、このことを私たちはいつ、どのようにして行っているのか。ちゃんとやっています。皆さんは毎週主の日の朝、礼拝するために集まり、みことばを聞いています。聖書のみことばの解き明かしを聞いて、神の御子に関する知識をまた新たにしていくな。そうやって私たちは知らず知らずのうちに整えられ、一つになっていく。そのために牧師が教会に立てられているわけです。

2) 奉仕の働き：自分がすることとはなにか

では、このようにして一步一步整えられていくと、そこで何が起きるか。先ほど触れました。「奉仕の働き」ということが自然にできてくる。いいでしょうか。自然にと言うところが大切です。ここを逆にしてしまうから問題が起きてしまう。整えられていくために、奉仕を一生懸命しなければ。これは順序が逆。そうではなくて、整えられていくうちに、いつの間にか気がつかないうちに「奉仕の働き」をしている。これなら自然で無理がない。

でも「気がつかないうちに」なんてできるのか。この「奉仕の働き」ということばが誤解を生みやすい。教会の奉仕を思い浮かべて、あれをしなければこれをしなければとなり、まったく自然にできない。「奉仕の働き」はそんな狭く取るのではなく、もっと広く考えてよいことばだと思います。教会だけでなく、この社会で、あるいは家庭のなかで、自分がすること、そう言い換えることができると思います。

そうは言っても、みなさん自分のすることは何であるかわかるでしょうか。すぐにわかる方は幸いですが、分からないという方もいるのではないかと。私は、「わからない人間」の典型でした。若いときのことで、大学に入ったはいいけれど、入った途端に二つのことで悩むようになった。一つ目は、人はどんなにがんばっても最期は死んでしまう、そういう人生にどんな意味があるのだろうか。それが一つ目の悩みです。二つ目は、そのこととも関連しますが、生きる目的がわからないわけですから、自分は何をしたらよいのかも分からなくなった。この二つの事で悩んで、引きこもり状態になってしまった。それでもなんとか誤魔化しながら結婚し、働くようにはなったのですが、心のどこかが空しくてぽっかりと穴があいたような感じがありました。そんなあるとき聖書に出会い、あなたのいのちは神が与えてくださったもので、あなたを造られた神とともに私たちは歩んでいくのだと書かれていたのを知って、腰を抜かすほど驚いた。それまでは、自分のいのちは自分のもの。人生は自分の力で切り拓くもの。生きる目標も自分で見つけるしかない。そう思っていて苦しかったのですが、聖書に出会ってずいぶんと楽になりました。でも二つ目の疑問、自分は何をしたらいいのか。そこは解決されたわけではない。会社で働いていても、これが私のすべきことなのかかわからない。洗礼を受けてからじょじょに祈り始めるうちに献身の思いが与えられ、そこからいろいろなことがあって、牧師の働きに召されていきました。これが私のすべきことという確信があります。しかし、みながみな献身者になるわけではありませんから、あまり参考にならない。皆さんの場合は、どうしたら自分のすることがわかるのでしょうか。なにか大それた決心をしなさいということなのでしょうか。そうではありません。実は皆さんがすでに自然にしていることです。そのことを次に見てまいります。

3 キリストのからだなる教会

1) 結び目によって

16節を読みます。「キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分はその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることとなります。」

この手紙の中で一番大好きな箇所です。なぜかという、私は実際にここに書かれていることの本当の意味を、皆さんを通して、この教会を通して教えられてきたからです。

16節にはいろいろなことばが詰め込まれているので、ちょっとわかりにくいかもしれません。でも言いたいことは単純で、鍵となることばは、「あらゆる節々を支えとして組み合わされ」です。以前の訳ではこうなっていました。「備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ。」私はこちらの方がむしろわかりやすいと思っています。

最初にも触れたように、教会はキリストのからだだとパウロは言いました。ここでも教会の働きをからだにたとえて説明しています。からだには関節があつて靭帯とか筋肉で結ばれています。この仕組みは実にうまくできていて、自由に動けるようになっていながら、なおかつ勝手にはずれないようにしている。教会もそれとよく似ていて、ひとりひとりがもっている関節をお互いに差し出して、そこで結び合わされていく。そんな表現をしている。それだけなら、普通の会社や組織とそれほど変わらない。すごいのはその先です。

2) 備えられている

何かというと、私たちはどのような関節を相手に差し出すのかです。すぐに思いつくのは見栄えの良いすばらしい関節を差し出すこと。そうすればしっかりと結ばれて、すばらしいからだができあがる。私のすべきことはそれだ。みなさんそう思いがちです。私はかつてそう思っていた。しかし聖書には何と書いてあるか。「備えられたあらゆる結び目」です。「備えられた」とはなんでしょう。能力でしょうか。才能でしょうか。それがすべきことなのか。では能力のない人や才能がない人はどうなのでしょう。高齢であったり、体が不自由であったり、病気の方はどうなのでしょう。そういう人たちはすべきことはなくて、教会のからだを建て上げることができないということなのか。絶対にそんなはずはない。

3) 弱さを告白していく

備えられた結び目とはなんでしょう。世の組織では能力、才能だと言います。しかし教会では正反対です。神はどのような者を救ったのですか。何かできるから救ったのでしょうか。そうではない。神に逆らって罪を犯し、何もできない者を救ってくださったのではないですか。私たちは、神に逆らうどら息子、どら娘だったのです。私たちが差し出す結び目とはそのことではないですか。私たち全員に例外なく備えられていたものがある。弱いということです。自分は罪ある者だという告白です。それが結び目だということです。

嘘だと思うでしょうか。いいえ、私が教会の皆さんからこのとおりだということを教えられてきました。弱さを告白するなかでつながってきた。この目で見てきました。だから自信をもってこれは真実だと言えます。皆さんは実感はないかもしれませんが、きちんとキリストのからだを建て上げてきている。もちろん、まだまだあちこち「ただいま建築中」ではありますが、一つのからだとなっていく道をちゃんと歩んでいる。ですからこれからのことも主がよくしてくださると信じます。

この教会をキリストのからだとしてくださり、キリストが満ちるようにと、お一人お一人を整え続けてくださる主の御名をあがめます。